

⑫ 公開特許公報(A)

昭62-255406

⑮ Int. Cl.

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和62年(1987)11月7日

A 61 K 7/00

7306-4C

審査請求 未請求 発明の数 1 (全5頁)

⑭ 発明の名称 非水系の温感皮膚化粧料

⑯ 特 願 昭61-99013

⑰ 出 願 昭61(1986)4月28日

⑱ 発 明 者 森 憲 治 小田原市城山3丁目17番21号

⑲ 出 願 人 鐘 紡 株 式 会 社 東京都墨田区墨田5丁目17番4号

明 細 書

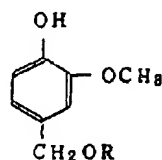
1. 発明の名称

非水系の温感皮膚化粧料

2. 特許請求の範囲

- (1) 主要構成成分として、下記の一般式で表わされる化合物の少なくとも一つと、飽和側鎖状アルコールと乳酸とからなる乳酸エステルが配合されていることを特徴とする非水系の温感皮膚化粧料。

一般式



(上記式中で、Rは炭素数3～6のアルキル基である。)

発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は、肌(皮膚)に塗布すると、肌に温い感覚(温感)を与え得る皮膚化粧料に関する。更に詳しくは、人体に好ましくない副作用や皮膚刺

激が無く、使用時には速やかに肌に温感を与えると共に適度の温感を長時間保持し得る非水系の温感皮膚化粧料に関する。

(従来技術)

従来より、使用時に肌に温感を与える目的で、多価アルコール、唐辛子末、唐辛子チンキ、唐ガラシエキス、カプサイシン、ノニル酸ワニルアミド、生姜溶液、メントール、カンファー、サリチル酸メチル等が皮膚化粧料に配合されていたが、これらは特異な刺激臭や皮膚刺激を有していたり温感が十分でない等の欠点を有していた。

一方、特開昭57-75909号公報には、多価アルコール等の水と接して発熱し温度を上昇させる物質を多量含有した温感化粧料が開示されているが、この化粧料は昇温効果が不十分でかつ温感が弱い等の欠点がある。

(発明が解決しようとする問題点)

本発明者は従来技術における難点を改良せんとして鋭意研究した結果、後記一般式で表わされる化合物(特定のワニルアルキルエーテル)と飽

和側鎖状アルコールと乳酸とからなる乳酸エステル（以下乳酸エステルと略記する）を含有する非水系の皮膚化粧品は、

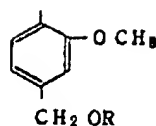
- (1) 人体に対して安全で、皮膚刺激が無い。
 - (2) 不快な刺激臭等を有していない。
 - (3) 使用時には発熱や皮膚温度の上昇を惹起することなく、肌に速やかに温感を与え、しかも適度の温感を長時間保持し得ること
- 等を見出し、本発明を完成した。

本発明の目的は、人体に好ましくない副作用や皮膚刺激が無く、温感とその持続性に優れた温感皮膚化粧料を提供することにある。

（問題点を解決するための手段）

上述の目的は、主要構成成分として、下記の一級式で表わされる化合物の少なくとも一つと、乳酸エステルが配合されていることを特徴とする温感皮膚化粧料によって達成される。

一般式



（上記式中で、Rは炭素数3～6のアルキル基である。）

本発明に使用する前記一般式で表わされる化合物（以下、便宜上ワニリルアルキルエーテルという）としては、例えばワニリル-*n*-プロピルエーテル、ワニリルイソプロピルエーテル、ワニリル-*n*-ブチルエーテル、ワニリル-*n*-アミルエーテル、ワニリルイソアミルエーテル、ワニリル-*n*-ヘキシルエーテル等を挙げることができる。

これらのワニリルアルキルエーテルは、特開昭 52-9729号公報に開示されているように公知の化合物であって、下記の如く人体に対して安全で、皮膚刺激性や感作性を有していない。

(1) 皮膚刺激

後記の Draize の方法に準じて試験を行なっ

た結果、動物皮膚刺激スコアおよびヒト(人)皮膚刺激スコアは何れも0であり、上記のワニリルアルキルエーテルには、皮膚刺激性がないことが認められた。

[Draize, J.H., Association of Food and Drug officials of the United States Appraisal of the Safety of Chemicals in Foods Drug and Cosmetics, 46(1959), Texas State Department of Health, Austin]

(2) 感作性

後記の Magnusson 等の Maximization Test（アレルギー性試験法）に準じて行なった結果、上記のワニリルアルキルエーテルには感作性が認められなかった。

[Magnusson, B, Kligman, A, M., : Allergic, Contact Dermatitis in the Guinea Pig (1970), Charles, C, Thomas, Publisher Springfield, Illinois, USA]
本発明の化粧料におけるワニリルアルキルエー

テルの配合量（使用量）は、処方成分の全重量（組成物の重量）を基準として0.05～0.5重量%である。0.05重量%よりも少ないと温感効果が不十分で、0.5重量%を超えると温感（熱感）が強すぎるので好ましくない。

本発明に用いられる乳酸エステルは飽和側鎖状アルコールと乳酸とからなる乳酸エステルであって、例えばイソプロピルラクテート、イソブチルラクテート、2-エチルヘキシルラクテート、オクチルドデシルラクテート、イソノニルラクテート、2-ヘキシルデシルラクテート、イソステアリルラクテート、イソトリデシルラクテート、2-ヘプチルウンデシルラクテート、5, 7, 7-トリメチル-2-(1, 3, 3-トリメチルブチル)-オクチルラクテート等が挙げられる。

これらの乳酸エステルは、一種または二種以上組合せて使用され、その配合量は、併用するワニリルアルキルエーテルの重量の10倍以上であり、かつ当該化粧料の処方成分の全重量（組成物の重量）を基準として0.5～90.0重量%、好まし

表 - 1

	温 感 物 質	刺激臭 (人)	刺 激 (人)	温感開始 時間(分)	温感持続 時間(分)	温 感 の 強 度				
						感じない	弱く感じる	ちやうど よく感じる	強く感じる	強すぎてか まんでこない
比較例1	ゲ リ セ ,リ ン	0	0	0	0	20人	0人	0人	0人	0人
" 2	屈 辛 子 末	0	10	3.5	0.8	15	4	1	0	0
" 3	カ ブ サ イ シ ン	0	19	2.3	8.1	0	0	0	2	18
" 4	メ ン ト ー ル	20	0	0	0	20	0	0	0	0
" 5	サ リ チ ル 酸 メ チ ル	20	14	3.2	1.3	18	2	0	0	0
" 6	ワ ニ リ ン	0	0	0	0	20	0	0	0	0
" 7	ワニリルメチルエーテル	0	0	0	0	20	0	0	0	0
" 8	ワニリルエチルエーテル	0	0	0	0	20	0	0	0	0
" 9	ワニリルヘプチルエーテル	0	0	5.3	4.5	13	3	4	0	0
実施例1	ワニリル-n-プロピルエーテル	0	0	2.1	24.5	0	1	19	0	0
" 2	ワニリル-n-ブチルエーテル	0	0	2.0	25.0	0	0	20	0	0
" 3	ワニリル-n-アミルエーテル	0	0	2.1	24.4	0	0	20	0	0
" 4	ワニリル-n-ヘキシルエーテル	0	0	1.9	23.8	0	1	19	0	0
" 5	ワニリルイソプロピルエーテル	0	0	2.0	26.0	0	2	18	0	0

のワニリルアルキルエーテルの温感効果は極めて良好である。

実施例5～12, 比較例10～12(油性ファンデーション)

処方

① ベンガラ	1.4 %
② 黄酸化鉄	4
③ 黒酸化鉄	0.4
④ 酸化チタン	20
⑤ マイカ	10
⑥ タルク	3
⑦ 流動パラフィン	31.9
⑧ 表-2に示す化合物	15
⑨ オゾケライト	7
⑩ マイクロクリスタリンワックス	7
⑪ ワニリル-n-ブチルエーテル	0.3

①～⑧を均一に混合した後、この顔料混合物に⑨～⑪を均一に溶解混合したものを添加し、充分乾燥して再び溶解し金皿に流し込んで油性ファンデーションを調製した。

その結果を表-2に示す。表-2から明らかな如く、ワニリルアルキルエーテルを配合していても乳酸エステルを配合しない場合には温感を殆んど感じない。

実施例13(口紅)

① マイクロクリスタリンワックス	8.0 %
② セレシン	5.0
③ キャンデリラロウ	3.0
④ カルナウバロウ	1.0
⑤ コレステリンステアレート	10.0
⑥ スクワラン	5.0
⑦ 2-ペプチルウンデシルラクテート	20.0
⑧ トリグリセリルカブレート	25.0
⑨ ラノリン	4.9
⑩ ワニリル-n-アミルエーテル	0.1
⑪ ヒマシ油	14.9
⑫ 赤色202号	1.5
⑬ 青色1号アルミニウムレーキ	0.1
⑭ ベンガラ	0.5
⑮ 酸化チタン	0.5

表 - 2

	化 合 物	刺激臭 (人)	刺 激 (人)	温感開始 時間(分)	温感持続 時間(分)	温 感 の 強 度				
						感じない	弱く感じる	ちょうどよく感じる	強く感じる	強すぎてがまんできない
比較例 10	ナシ (流動パラフィン)	0	0	0	0	20人	0人	0人	0人	0人
" 11	2-エチルヘキシルアルコール	0	0	4.8	0.04	18	2	0	0	0
" 12	乳 酸	5	0	4.3	0.04	18	2	0	0	0
実施例 5	イソプロピルラクテート	0	0	2.1	23.3	0	6	14	0	0
" 6	イソブチルラクテート	0	0	2.0	25.5	1	4	15	0	0
" 7	2-エチルヘキシルラクテート	0	0	1.9	26.1	0	4	16	0	0
" 8	オクチルドデシルラクテート	0	0	2.2	24.5	0	7	13	0	0
" 9	イソノニルラクテート	0	0	2.2	28.4	1	6	13	0	0
" 10	2-ヘキシルデシルラクテート	0	0	2.1	24.6	0	4	16	0	0
" 11	イソステアシルラクテート	0	0	2.2	25.8	0	5	15	0	0
" 12	イソトリデシルラクテート	0	0	2.3	25.2	1	5	14	0	0

④ 香料

0.5

①～④を加熱融解して均一に混合した後、これに色材を加え、ロールミルで練り均一に分散させる。

次いで、これを再溶解して香料を加え、脱泡してから型に流し込み、急冷して固化したものを型から取り出し容器に充填して本発明の口紅を得た。

その特性を表-3に示す。表-3から明らかな如く、本発明の口紅は、温感開始時間が短かく、長時間温感が持続し、温感の強度も適度で良好であった。

表 - 3

刺激臭	刺 激	温感開始 時間(分)	温感持続 時間(分)	温感の強度
				ちょうどよく感じる
0	0	1.8	31.2	20人

特許出願人 縫紡株式会社

BEST AVAILABLE COPY

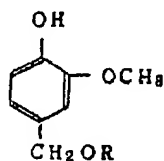
English abstract of Reference 6

Title of the invention:

Non-aqueous cosmetics for providing a warm-feeling to the skin

Claim 1:

A non-aqueous cosmetic for providing a warm-feeling to the skin, comprising at least one of the compounds represented by the following general formula:



wherein R is a C₃₋₆ alkyl group,
and a lactate ester of a saturated, branched alcohol and lactic acid.

The specification describes that capsaicin has been used previously in cosmetics for the purpose of providing a warm-feeling to the skin but it causes a skin irritation. The specification also describes that the claimed cosmetic can provide a warm-feeling to the skin without any skin irritation.

BEST AVAILABLE COPY